

JACIC news

2024
1月号/No.415

JACIC 一般財団法人日本建設情報総合センター



新年のご挨拶



やま だくにひろ
理事長 山田邦博

新年を迎え、謹んで初春のご挨拶を申し上げます。

皆様には、当財団の事業に対し、日頃より深いご理解とご支援を賜りありがとうございます。厚くお礼申し上げます。

昨年、世界中で猛威を振るっていた新型コロナウイルス感染症は、5月にWHO（世界保健機関）が緊急事態宣言の終了を宣言し、日本においても感染法上の分類を「2類」から「5類」に下げたことで3年以上にわたって続いていたさまざまな制約が解除され、社会は「アフターコロナ」の時代に突入しました。

世界に注目して見るとロシアによるウクライナの侵攻は収束する状況にはいたらず、世界中が混沌混迷化しつつあります。それに伴い全世界的な食糧危機、エネルギー危機は今なお続いており、現在の物価高騰にもつながっています。

このように時代は大きく転換期を迎えていますが、私たちの生活、経済の基盤となるインフラの整備、管理は今後とも怠りなく着実に進めていかなければなりません。

中でも地球温暖化に伴う近年の異常気象により全世界的に自然災害が多発しており、異常気象がニューノーマル化しつつあります。

特に脆弱な国土を抱えるわが国においては、国土の強靱化に資するインフラ整備の一層が緊急の課題となっています。

本年2024年は、建設業界における2024年問題、時間外労働の罰則付き上限規制の適用が4月スタートと迫っております。

このような状況のなか国土交通省においては、効率的な建設事業を進めるため、従来より「i-Construction施策」を推進してきました。現在、デジタル技術の一層の活用により、これを「インフラ分野のDX施策」として更に発展させ、DXの取り組みを一層加速化させています。

もとより私たちJACICのミッションは、情報という手段により建設事業の高度化を支援し、もって社会の発展に寄与することです。

具体的には①公共調達に関わる情報提供、②建設情報に関わる研究開発、③建設プロセスに関わる情報の利活用促進の3つの柱のもと各種事業の展開を図っています。

現在、JACICでは、

① 建設事業の高度化を支える、JACIC提供サービスの品質の向上

② インフラ分野のDXを支える調査研究と実践の推進を重点的に取り組んでいます。

一つ目の「建設事業の高度化を支える、JACIC提供サービスの品質の向上」に関しては、例えば、基幹的なサービスの一つであるコリンズ・テクリスシステムにおいて、ユーザーの視点に立ったサービスの向上に努め、昨年2023年8月に機器更新（リプレース）と機能改良を行い、登録内容の確認がWeb（オンライン）でできるよう手続きの簡素化も進めました。更に、建設副産物情報交換システム（コプリス）と建設発生土交換システムについては、2025年度中に建設発生土の官民マッチングシステム（官民マッチング）も含め、一体的なサービスを開始する予定です。

二つ目の「インフラ分野のDXをさせる調査研究と実践の推進」では、洪水時、道路通行規制、雪害対策時の状況把握等で活用が進むJACICルームにおいて、データと連携したGIS基盤機能を有する専門画面を提供し、現場マネジメントのDXの推進の支援など、多様な局面でご活用いただいています。昨年2023年5月19日から21日に開催されたG7広島サミットで様々な場所で道路交通が規制されましたが、道路のリアルタイム画像を関係機関で共有できるよう、JACICルームのGIS画面を構築し、サミット期間中、正常に稼働させ協力しました。

今後も現場のニーズに即したサービス提供に努め、DX時代の新たなマネジメントの実現を図ってまいります。

これらに加えて、JACICでは、建設情報の標準化を目的として設置した「社会基盤情報標準化委員会」のもとでBIM/CIMの標準化に関する活動をしています。更に各地でBIM/CIMに携わる皆様の技術力向上に寄与するセミナーの開催支援等にも取り組んでまいります。

私どもJACICでは、皆様方のご支援・ご協力の下で、総合的な建設情報の提供という社会的使命を果たすとともに、今後とも、国土交通省が進めるi-Constructionやインフラ分野のDX推進などの諸施策を積極的に支援し、アフターコロナ時代の新たな仕事の進め方改革に寄与してまいりたいと考えています。

今年も皆様の益々のご多幸をお祈り申し上げます。

地方便り

中国地方センターの活動

中国地方センターでは、国土交通省中国地方整備局が所管する中国地方5県を担当管内として、国や地方公共団体等に対し建設技術の向上、建設事業の効率化、国土の安全かつ有効活用の促進にかかる支援並びに、JACICが提供している建設関係システムの利用促進及びフォローアップを行っています。

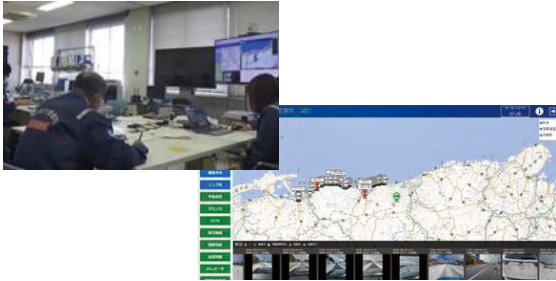
本号では、中国地方センターにおける令和5年の主な活動を紹介します。

■「JACICルーム」の普及

JACICクラウドのICTプラットフォームの一つであるJACICルームでは、ファイル共有やGIS画面等により様々な場面に対応が可能となり、新しいマネジメントの実現を支援しています。

□「冬季雪害対応」支援

倉吉河川国道事務所のご協力により構築した「雪害対応に利用しやすいJACICルーム」は各事務所から評価を頂き、今冬は山陰両県及び中山間地域で主に雪害対応を担う5事務所（鳥取河川国道、倉吉河川国道、松江国道、浜田河川国道、三次河川国道）で活用して頂くことになりました。

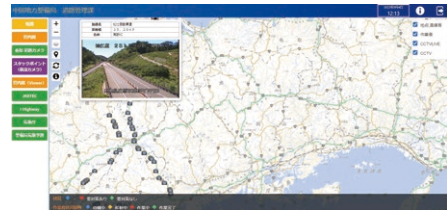


□「G7広島サミット期間中の道路監視」支援

整備局 道路部 道路管理課の依頼を受けて整備局が保有するCCTVと広島市内に臨時に設置したWEBカメラの映像を一元的に確認できる様に専門画面を構築しました。これにより、サミット期間中は、県警本部や保守業者など普段CCTV映像が確認出来ない関係機関とも情報共有が可能となりました。

□「道路画像（CCTV）」情報共有

雪害対応にあたる保守・維持業者からの「本格的な降雪時には整備局HPで提供している道路画像提システムはアクセス集中のため接続できなくなる」との意見を踏まえ、整備局 道路部 道路管理課の依頼を受けて雪害対応者専用のGIS画面（道路画像（CCTV）情報共有）を構築しました。これにより、降雪時の道路監視がストレスなく実施できると期待しています。



■中国ブロックコアシステムユーザ会議

令和5年7月13日、9団体14名の出席（WEB参加者を含む）のもと、中国ブロックコアシステムユーザ会議を開催しました。事務局からは特に会員の関心が高いコアシステムに関連する政府等の動向・関連技術の動向などの情報提供、質疑応答等、情報交換が活発に行なわれました。

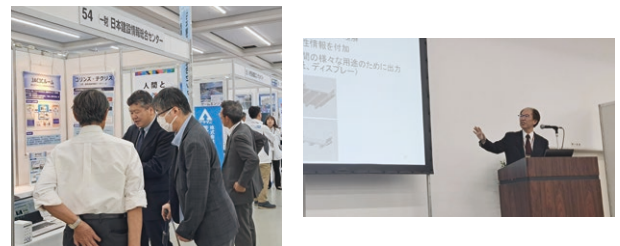


■建設技術フォーラム2023 in ちゅうごく

10月24日～25日、建設技術フォーラム2023 in ちゅうごくが開催されました。期間中は96の技術展示ブースに加え11課題のセミナー発表や国土交通省森下博之大臣官房参事官による基調講演も行われました。

JACIC中国地方センターはブース展示や野田理事によるセミナー講演等を行いました。

開催期間中は多くの方々にお立ち寄り頂き誠にありがとうございました。あらためて感謝申し上げます。



■最後に

当センターでは、国や地方公共団体等との意見交換から、業務改善に資する提案を行うとともにフォローアップに努めています。業務実施にあたり、疑問点や個別のご相談などありましたらお気軽にお問合せ頂きたくお願い申し上げます。

（中国地方センター長 山崎 彰）

■編集・発行 一般財団法人日本建設情報総合センター

〒107-6114 東京都港区赤坂5丁目2番20号 赤坂パークビル14階
TEL. (03)3505-2981(代表) FAX. (03)3505-0414
ご意見・お問い合わせ先: <https://www.jacic.or.jp/about/syozai/syozai.html>
JACICホームページ <https://www.jacic.or.jp/>



編集・構成 日本印刷株
TEL. (03)5911-8660